

資料で旅する仙台藩の「道」

奥州街道と仙台藩の道

仙台市博物館 学芸普及室 倉橋 真紀

第1回

今月号からは、仙台藩の街道について、絵図や写真等を交えながらご紹介していきます。

江戸へと続く奥州街道

江戸時代、幕府の政治を全国に行き渡らせ、参勤交代等の公用で江戸と国元を往来する大名たちの利便性を図るため、幕府は慶長年間（一五九六～一六一五）から主要な街道の整備を始めました。その内の一つが奥州街道です。

奥州街道と呼ばれることが多いですが、実は幕府が定めた正式名称は「奥州道中」でした。その道筋は江戸の日本橋を起点として白河宿（福島県）までです。白河宿から松前（北海道）まではあくまで奥州街道の延長という位置づけでした。管轄も主要街道については道中奉行でしたが、白河宿より北は寺社奉行となっていました。

それでも、奥州街道は仙台藩にとって最も中心となる江戸との往來の道。多くの人や物資が行き交いました。

仙台藩主も参勤交代のためにこの街道を通りました。重臣等を中心に、国元に残った家臣たちは、中田宿（太白区中田）まで送迎に出向くのが恒例だったようです。

仙台市域の奥州街道

仙台城下の奥州街道は、慶長六年（一六〇一）から始まる城下町の建設・整備にとまない、その東側を通っていた戦国時代の幹線道の道筋を変更して、町の中心を南北に通るように引き込んだものです。街道沿いには宿場が設置され、伝馬役という幕府の公用荷物などを継ぎ送る役目を担い、休憩や商売の場所ともなりました。

現在の仙台市の範囲でみると、街道の整備は城下町の南から進み、中田宿・長町宿（太白区長町）は慶長一〇年頃、城下以北の最初の宿場である七北田宿は、元和九年（一六二二）に整備されています。城下町の中心は、町を東西に横切る大町通と奥州街道が交差する芭蕉の辻でしたが、仙台藩の街道の中心は北目町でした。写真の『仙台藩村分絵図』には奥州街道は太い朱線、それ以外の道は細めの朱線で描かれています。その道の注記に「北目町ヨリ」の距離が書き込まれている部分が複数みえ、北目町が街道の起点であることがわかります。

脇往還・在郷道

街道の名前は、その道が向かう先の地名を付けて呼ばれるのが一般的です。仙台藩が宿場などを整備した主要な街道（往還）である脇往還を例にすると、城下を出発して塩竈へ向かう道は塩竈街道、長町を出発して山形へ向かい、二口峠を越える道は二口街道と呼ばれていました。このほかに城下外の村々へ通じる在郷道と呼ばれる道もありました。写真の絵図にみえる朱線は、城下町を中心に領内に多くの道がめぐっていたことを伝えてくれています。

これからの連載で紹介されるいろいろな種類の「道」を、資料を通してお楽しみください。



元禄15年(1702)ころの仙台藩領を描いた『仙台藩村分絵図』(部分)
青で囲んだ部分が北目町付近 仙台市博物館蔵

旬の常設展2020夏 9/22(火・祝)まで 開催中!

特集展示「支倉常長帰国400年」

7/21(火)～9/13(日)

今年は、伊達政宗の命により海外を旅した慶長遣欧使節の一人・支倉常長の帰国から400年を迎えます。現在「旬の常設展」のなかで、この節目を記念した特集展示を開催しています。ユネスコ記憶遺産3点を含む、国宝「慶長遣欧使節関係資料」全47点を6年半ぶりに一挙公開中です!



ユネスコ記憶遺産・国宝 ローマ市民権証書
仙台市博物館蔵 (展示期間: 7/21～9/13)

【観覧料】一般・大学生 460円、高校生 230円、小・中学生 110円

※新型コロナウイルス感染予防のため、ご来館の際にはマスクの着用にご協力をお願いいたします。



ユネスコ記憶遺産・国宝
支倉常長像 仙台市博物館蔵

仙台市博物館
SENDAI CITY MUSEUM

▶8月の休館日 毎週月曜日(10日は開館)、11日(火)

▶開館時間 9:00～16:45(入館は16:15まで)

▶博物館ホームページ [仙台市博物館](#) 検索

※開館状況など最新の情報は、博物館ホームページをご覧ください。

▶博物館ツイッター @sendai_shihaku

〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡) TEL:022-225-3074